

シロマダラ *Dinodon orientale* (Hilgendorf)

【選定理由】

夜行性であることから確認例が少ない。分布域は広いようであるが、個体数など不明な点が多く実態が明らかではないことから、評価を情報不足とされた。

【形態】

頭部は比較的大きく背面が扁平、吻端はややにぶく、頸部はあまりくびれない。灰色褐色の地色で、胴に 40 個内外、尾に 15~20 個の黒色横帯が並ぶ。胴体中央の体鱗は 17 列でおおむねキールを持たない。腹板は 200~215 枚くらい。瞳孔は縦長の楕円形。全長 30~70cm。



豊田市, 吉鶴靖則 撮影

【分布の概要】

日本固有種。国内では本州、四国、九州、とその周辺の一部の島嶼に分布。北海道では札幌近郊と奥尻島のみ。県内では丘陵地から山地にかけての記録が多いが、名古屋市内でも記録がある(矢部, 2015)。

【生息地の環境／生態的特性】

樹林地で見られることが多いが、河川敷や公園(安井・浅香, 2011)等にも見られることがあり、生息環境の幅は比較的広いと考えられる。夜行性でトカゲや小型のヘビなどの爬虫類を食べると言われているが、詳しい生態は不明である。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内の記録は丘陵地および山地域に多く、特に奥三河の記録が多いが、知多半島及び渥美半島にも確実に生息している。平野部からの情報は乏しいが、目につきにくい種であるため、見過ごされている可能性もある。

【保全上の留意点】

本種は、夜行性で昼間は構造物や石の下に潜んでいることが多い。樹林地の保護や林床の保全に留意することが必要である。

【特記事項】

威嚇や攻撃で効果がないと体を硬くして擬死状態になる。特有の縞模様と、追い詰められたときの攻撃姿勢から、有毒のママシと混同され殺傷されることが多い。

【引用文献】

矢部 隆, 2015. シロマダラ. 名古屋市環境局編 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや 2015 動物編, p.119. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋.
安井謙介・浅香智也, 2011. 愛知県豊川市で採集されたタカチホヘビ及びシロマダラ. 豊橋市自然史博物館研報 (21): 27-29.

【関連文献】

小鹿 亨, 2010. シロマダラの 1 目撃記録. 三河生物 1-2: 62.
吉鶴靖則, 2016. 東海市でシロマダラを記録. 三河生物 8: 41-42.

県内分布図

